

# 貧困救済と鉱業振興

岸本文男(地質相談所)

Fumio Kishimoto

## はじめに

1985年末の統計(中国国勢地図:帝国書院 1987)によると 中華人民共和国の人口は世界の総人口の約22%を占めているが 国土の面積は世界の陸地総面積の約7% 耕地面積はそのうちの約10%を占めるにすぎず 国民収入は人口1人当り年間653元(1元≒40円) 輸出入総額は696.1億ドルで 148.9億ドルの輸入超過であった。この数字だけ見ても 中国が豊かになるにはなお厳しい努力が必要なのがわかる。さらに中国国民の物質文化生活を都市と農村の住民別に同じく1985年末の統計でみると 平均収入が農民で一人当り年間398元 都市サラリーマンで1,148元 支出が農民家庭で一人当り年間317元 サラリーマン家庭で732元であり 都市と農村の格差は歴然としている。これをまた 肥沃な平野の農村と耕地に乏しい山村を比較することができれば おそらく山村の貧しさは予想を遙かに越えることであろう。

これから標記のテーマで 中国の山村の状態やその救済を目指して鉱業開発を進めている現在の中国の断片を紹介するが 鉱業の危機の時代を迎えている我が国の行く末との関連 中国と我が国との係わり合い さらに

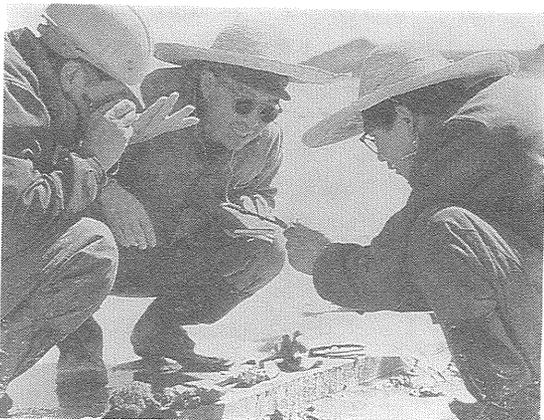
政治の有様などを思い描きながら 読んでいただければ幸いである。

## 貧困救済への地質事業方針

中国が国是として掲げているのは いわゆる「四つの近代化」である。その第一は「農業の近代化」 第二は「工業の近代化」 第三は「科学技術の近代化」 第四は「軍事の近代化」である。この「四つの近代化」を進める上で どうしても乗り越えなくてはならない課題は 運営の面では一に決心 二に民主 三に集中 四に普及 そして即物的には一に人材 二に資金 三に設備と四に材料 といったところであろうか。一方 中国は現在 真剣に貧困を無くそうという課題に取り組んでいる。その貧困を鉱業によって直接救済するという方法は これらの資金と材料に関する課題につながり 大きくは近代化全体の政治思想の確立につながる まさに一石二鳥 一石三鳥の効果を秘めているものと言えよう。だからこそ山村の人々も多くは意義を知った上での真剣な取組みであり とくに政府は真剣なのだと思われる。まずは中国政府がその地質機関 地質事業に従事する人々にどう言っているか 対象となるべき地域はどんなところ どんな状態にあるか それを先に紹介する。

これに関し中国地質鉱産部が発行している新聞「中国地質報」は 1986年3月17日付けの紙面で 「貧困地域の様相を変えるために多くの仕事をしよう」と題して次のような長文の きわめて率直な主張を発表した。

「中国共産党第11回大会第3回中央委員会総会以来 農村の改革は絶えず深まり 農業生産は急速に発展し 農民の生活は次第に改善されつつあるが 数少ないけれども一部の地域は依然として貧困状態にあり 一部の農民の衣食困窮の問題はまだ完全には解決されていない。中国共産党中央委員会はこれらの地域に関心を払い 1984年9月30日に同中央委員会と國務院が出した通達および同年の中央委員会第一号文書はいずれも 各級人民政府と各部門に貧困地域をしっかりと援助して その様相を改善するよう要求している。地質鉱産部門は責任を



第1図 中国地質鉱産部チベット地方塩湖調査隊が1982年に調査したツァブイェル湖で 採取試料を観察・記録する地質専門家たち。(“中国画報”1983.5)。

他に転嫁することなく 実地に貧困地域のための仕事をしなければならぬ。

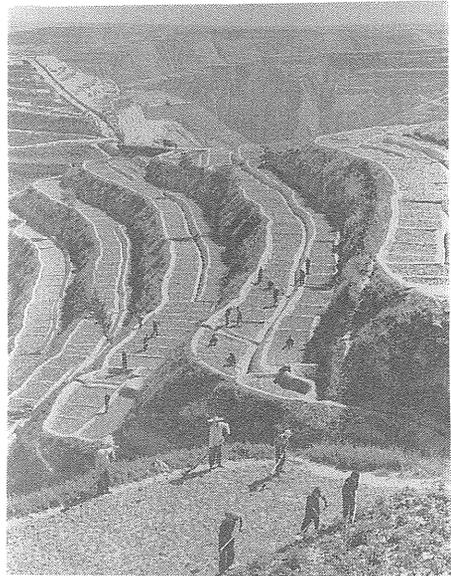
### (一)

この数年 我々はひたすら地質事業の実施地域の拡大に努め 広域経済に貢献できる多くの様式を力を尽して探し求めてきた。地下資源の開発を早めると言う総方針を貫き 地質市場を開拓する過程で 多くの地質鉱産局 地質隊が貧困地域のために多方面にわたる技術指導・相談業務にたづさわり いくつかの素晴らしい形態を生みだし かなり優れた成果を収めている。たとえば陝西省地質鉱産局は積極・主動的に山陽県のために小鉱床の探査と評価を行い 山陽県地区の鉱業の急速な発展をもたらした。たとえば 1984年の同県全体の工業の総生産高は396万元に達し その中で村落・集団と個人が経営する鉱山の生産高は県全体の工業生産高の28%を占め 利潤は県全体の工業生産の総利潤の54%を占めた。

現在 地質隊と村落が共同して経営する鉱山が次第に増え それぞれの地域の経済の繁栄を促進し 少なからざる貧困地域の人民が豊かになる道を進んでいる。事実が明らかにしているように 鉱産資源の開発は貧困地域が現実に豊かな地域になる方法の一つである。貧困地域が貧しさから脱して豊かになるのを援助することは地質事業が広域経済に尽す一つの優れた形態と言えるものである。

地質および資源の視点で見ると 貧困地域は次のような問題をかかえている。すなわち 鉱産資源の分野で言えば 幾つかの地域は既に探査済みの地下資源がまだ未開発のままであり 別の幾つかの地域の鉱産資源は状況が不明か あるいは採鉱・選鉱・冶金の技術を欠いている。水資源の面では ある地域は水に乏しく あるいは水質が悪く 飲料水に原因した風土病が絶えずはびこり 水の確保が大きな難題となっている。

また環境の面では ある地域は水の枯渇 土壌の流失 土地の砂漠化が続き ある地域は地氾り・土石流・地震などの地質災害が依然として人民の生命と財産の安全を脅かしている。総じて貧困地域は 各方面の援助を緊急に必要としているのである。このような状況に対し 地質鉱産部は 組織的・計画的に部自体の力量を発揮して 地質・鉱産資源の角度から具体的な指導と援助を与え 鉱産資源の豊かさを生かして貧困地域を助け 自然環境の悪さを改造し 豊かさへの道を進むことが出来るようにしなければならないのである。まさにこのようなことを考えたからこそ 地質鉱産部は1986年1月27日に “貧困地域人民の貧困脱出・富裕化に服務する決定について”を出したのである。各地質鉱産局と各



第2図 甘粛省東部の台地。(“中国画報”1963.1)

地質隊が計画的・組織的に さらに自覚的に貧困地域の「貧困脱出・富裕化」に服務し そして地下資源の開発速度を早めると言う総方針を貫徹・実践し 地質市場の縦深的な発展を押し進めるためには この“決定”の普及が不可欠である。

### (二)

貧困地域の人民は貧しさから脱して 豊かにならねばならない。一面では産業構造を調整して 新たな豊かになる道を探し出さねばならず 別の一面では自然環境を改造して 実際の幾つかの困難を解決しなければならない。この両面の要求に基づいて 地質鉱産部の貧困地域のための服務は 鉱産資源の探査・開発・利用 水資源の探査・確保 多面的な技術指導・相談業務を主な内容とするものである。

鉱産資源の分布状況からすると 中国全域で13の広大な面積の貧困地域が断続的に存在する中で その大部分の地域は鉱産資源が有望な地域である。秦巴山区 烏蒙山区 雲南省東南地域は鉱産資源がとくに豊富で 鉱床胚胎ポテンシャルが高く 秦巴山区には地方的な採掘・開発に適した多くの種類の金属鉱床と螢石 石炭 燐鉱 セメント用石灰石などの非金属鉱床があり 既知の小型鉱床だけでも 300箇所に近い。武陵山区 大別山区 横断山区 九万大山 甘粛省中部地域 遼寧省西部の朝陽地域も鉱産資源の種類が多く 分散分布する中・小型の鉱床が少なくない。武陵山区には小型の鉱床が多く 石炭 水銀 セメント用石灰石 重晶石 螢石な

どは稼行できるものが多い。大行山脈 呂梁山脈 広西壮族自治区西北-西部の海城-固馬地域における地質調査・鉱床探査の程度は比較的強く 地下資源の様相があまりわかっていないので 鉱床の調査と評価の速度を早める必要がある。総じていえば 鉱産資源の開発は貧困地域を豊かにする重要な方法の一つであり 地下資源の賦存条件からすると それは可能である。

地下水資源の状況から見ると 広い面積で断続する13の貧困地域中の大部分の地域は地表水の利用条件がきわめて悪く おしなべて水が欠乏し 南から北に幾つかのくに水に乏しい県が分布している。貴州省の20県の140万人もの人々が飲料水に困っているが これは貴州省全体の農民人口の22%を占め 水源が存在する地方でも80%以上の飲料水が保健基準に達していない。或る県では 水をまるで金のように惜しみ 一杯の洗面器の水でまず顔を洗い それから足を洗い 最後に家畜に飲ませている状態である。広西壮族自治区西北部の山地区域では 渇水期には100万人の人々 そして60万頭の家畜が水の欠乏に苦しんでいる。人間と家畜の飲料水 田畑の灌漑などの生産用の水の不足は 貧困地域の非常に大きな問題の一つとなっている。

水の供給源の問題を解決するには 一つの良い前提がある。それは 中国の中南部と西南部のカルスト地域には地下河川が多いということである。たとえば 湖南省西部の約7万km<sup>2</sup>の範囲にそのような地下河川が650条ほど発見済みであり その総延長は1,800km 流量は1万t/dに近く 湖南省の洛塔県と広西壮族自治区の都安県では すでにこの地下河川の水が汲み上げられている。これらの地域のカルスト-割れ目水は広範

囲に分布している。太行山脈 呂梁山脈など北方のカルスト山地区にもカルスト割れ目水が分布し カルスト湧泉の地表湧出箇所が少なくない。甘肅省中部 寧夏回族自治区 西吉-海原-固原地域などの黄土高原では 幾つかの河谷の潜伏水が汲み上げ可能である。全体として或る程度の展望があるが 需要からすると 大規模な調査と探査が必要である。

そのほか 貧困地域には各種の風土病がある。中国の東北から西南にかけての一つの帯状の地域には 甲状腺肥大 弗素中毒 カシン病などの飲料水に原因する風土病が広がっている。この帯状の地域には一部 貧困地域も含まれている。遼寧省だけでも5種の風土病があり 省の三分の一の地域に広がっている。陝西省の南部地域では 風土病のために障害者が生まれ 増加しつつある。一般地質条件および水理地質条件からすると これらの風土病は広域地球化学異常(とくに飲料水の微量元素濃度の高異常ないし低異常)が引き起こすもので 発病はいずれも集団的である。多年にわたって 風土病発生地域におけるその病理の研究および飲料水の改良による予防・治療の分野での地質の研究が進められ たたとえば 安徽省地質鉱産局は淮北平野における探鉱井や水井戸の試錐コアを利用して高弗素水の滞水層準の範囲を決定したり 飲料用地下水の汲み上げ層準を定めるなど根本的な風土病予防措置を提起したが しかしこの分野の研究対象地域は非常に多く とくに重視しなくてはならない分野である。

地質や鉱物資源と関係ある 多方面にわたる技術指導・地質相談内容についても 解決すべき対象はまだまだ多く残っている。その中でも各種の地質災害 たとえば地汜り・土石流・地盤沈下・カルストの陥没などの監視・予測・防止 田畑の土壌改良 土壌の流失防止 砂漠化の予防 小型水力発電 道路建設などの分野での土木地質・環境地質上の問題 観光地質資源の開発の問題など地質調査・研究を要する課題は非常に多いのである。

全体として 地質鉱産部門が貧困地域を援助して その様相を改めるための調査・研究は発展させなければならない大きな必然性をもっており 事実 貧困地域は地質鉱産部門の資料と技術の提供など多方面にわたる支援を必要としている。

(三)

貧困地域を真剣に援助して その様相を好転させるよう指導するという事業は 実際から出発してその土地の事情に適合させ その土地の地下資源の豊富さを利用し 自力更生の形態を強めて生産を発展させることができる持続力を育て 次第に人民の生活を改善していく とい



第3図 蘭州砂漠研究所が新しく建設した風砂洞実験室(上)と 同研究所の砂漠フロント試験・観測施設の一角(下)。  
 (“中国画報”1985.10)

うものである。その指導に当っては、次の四つことが要求される。すなわち一つには、当面の経済効果・収益を改善し“短期間・平易・迅速”という課題を提起することである。一方では工夫を凝らし、どのようにして投資を少なくし、経済効果を早め、仕事をしやすくし、大衆による開発に適した対象を選びだすかという問題に正確に答え、それをもって経済成長の出発点とし、当該地域の経済の改善をもたらす。さらに一步進めて経済的創造の条件を進展させ、資金を蓄積させなくてはならない。もう一方では、地質調査事業そのものが実際から出発し、必要から出発して、最少の投資、最短の時間でもって鉱床などを評価し、出来る限り仕事を早め、利益が早く得られるようにする必要があるのである。

二つには、生産前・生産中・生産後でのサービスをそれぞれ十分に行うことである。総じて貧困地域の経済は未発達であり、生産技術と経営の水準が低く、そのため或る課題を押し進める過程での可採性の研究から開発の進め方、次の対象資源への転換にいたるまで、最初から後々までの援助と指導を続け、それによって経済効果を高める事に注意しなければならない。

三つには、小規模な内容の要請でも、これを支持することである。貧困地域は資金が欠乏し、比較的規模が大きい地質調査課題は負担しきれないこともあるし、条件によっては地質隊の一部を計画に入れるだけで済まそうとする場合もあるから、資金上からも支持を与えることになる。各種の教育班によって技術を伝授し、場合によっては経験の深い技術者を派遣して技術顧問職を担当させ、時にはさまざまな様式にしたがって資金、技術人材などの配分を競うこともあろうが、それはよいことである。それは、橋渡しを含めて貧困地域における資金、技術、人材の確保に役立つものである。

四つには、一步一步拡大し、一步一步深めることである。貧困地区を援助して徐々に工作を始め、大衆にとってもっとも急いで解決すべき問題を解決してから逐次進展させなくてはならない課題として、二つのものがある。その第一は、鉱業をうまく組立てたのち、商品経済の発展の要求に照らして、一步一步関連産業を配置していくこと。第二は、さらに一步進めて、貧困地域と地質資源が結びついた各種の問題を解決し、同地域の地下資源の開発に深く関与し、それによってその地下資源の豊かさを十分に活用することである。繰返して言うが、貧困救済のための地質事業は、一步一步深めていかねばならない。とくに鉱産物の利用の研究、各種の情報の提供、加工による付加価値の向上、それらによって経済効果を高めることに注目し、それを強化しなければならない。

ない。

#### (四)

貧困地域の人民が貧困から脱し、豊かになるために奉仕することは、経済上急がれているだけでなく、重大な政治的な意義も備えている。

中国は広大な広がりをもった一つの国家で、地域間の経済発展には非常に大きなアンバランスがあり、東部の諸地域は経済の発展テンポが早く、富裕度が比較的高いが、中部と西部の諸地域はそのテンポが遅く、富裕度が東部よりもかなり低い。これは、まぎれもない事実である。地域間の経済発展に差が生じることは、今後とも免がれ難いことである。したがって、中国の“第七次5ヶ年計画”およびその後10年の経済発展のための戦略は、東から西に一步一步推進するというものである。当面の主として中部と西部の幾つかの地域に存在する貧困状態、これらの経済的措置および開発を待っている状態は、経済発展の全局に影響を与えずにはおかない状況にある。したがって、貧困地域の貧困脱出・富裕化を援助することは、経済発展の客観的な要求であり、ただ貧困地域の経済を急速に発展させるためだけでなく、人民の生活を改善させ、貧困地域の人民が経済の発展過程でその資質を高め、生産技術と経営管理水準を向上させ、生産方式と生活方式を改め、次第に商品経済の発展の需要に適応し、国家の経済発展戦略に役立つ幾つかの基礎的な条件を作り出すことになり得るし、また国家の経済の全面的な進行と経済社会の全体の水準の一步向上を助けることにもなるのである。

協力・共同による富裕化は、中国共産党がひたすら堅持してきた奮闘目標である。貧困地域のかなりの部分は古い革命根拠地で、それらの地域の人民は革命戦争の時代に巨大な犠牲を払った。我々は先輩烈士に恥ないよう、彼等の富裕化への道を援助する責任をもっている。共同の富裕化の目標に到達するには、ただ分配に着眼するだけでなく、さらに重要なことは生産に着眼し、貧困地域の生産力の発展水準を高めるよう努力する必要がある。中国の農民は多数を占め、農村経済が全体の奮闘目標の達成に決定的な働きをすることは言うまでもない。農民が豊かになれば、全国の富を倍増させ、国力を良い水準に到達させることを保証することになる。同時に、団結の恒常的な発展という政治的局面にも深く大きい影響を与えることにもなるのである。

貧困地域を助けて、その様相を改めるには、まさに必ず多数を擁する地質鉱産関係の幹部と専門家・職員が認識を更に高め、仕事への態度を変えなくてはならないのである。貧困地域の変貌を助けることは、ただ地方の



第4図 個旧市を俯瞰する。この市は雲南省の直轄市となって今は繁栄しているが 39年前までは小さな鉱山町にすぎなかった。（“中国画報”1986. 10）

人民政府と民生部門が為すべきことだけでなく 地質鉱産部門に課せられた責務でもある。貧困地域を地質鉱産部門が援助せずして 真の援助とはなり得ない。そして もっとも重要なことは人民に奉仕するという確固とした思想を打ち立て “讓利于民”（人々に利益を讓る）の原則を堅持し 進んで奉仕に徹することである。

人民に奉仕することは中国共産党の根本的な鉄則であり この一点をどのようなことがあっても忘れてならないことは言うまでもない。我々は 一方では逐次実行の方針を堅持して 部分的な地質上の成果をこの方向で有償使用し もう一方では 積極・主動的に貧困地域の変貌を助けなくてはならない。この両面は決して矛盾せず 統一的なものである。両者の統一と結合点は何処か？ 円滑な経費支弁規則があればこそ 我々は地方と利益を争わず 人民に利益を讓る原則を堅持することができ それぞれ異なる状況をきちんと識別して政策を緩め さらに円滑な経費支弁方法を採用することができるのである。提供された各種の服務への経費支払規準は非貧困地域の場合よりも低くし 場合によっては無償であってよく 一般的には当該地域が利益を得てからその利益を分けあうか もしくは回収して あらためて投入すべきである。当該地域の経済の発展にしたがって 逐次有償奉仕の範囲を拡大していけばよい。

貧困地域の変貌を援助するに当っては 必ず真剣に作風を変えなくてはならない。この数年 地質鉱産部の幾つかの局と隊が貧困地域で奉仕に携わった際に優れた経験を生みだし 優れた成果を取めたが その基本的な経験の一つは優れた作風にあった。現在我々は初期のどのような単純 分散 個別的な仕事の進め方にも もはや満足することができないし 部分的な 試行錯誤のやり方を再び継続することもできない。あるいは計画的に あるいは方針を立てて 全面的 積極・主動的な進め方が必要であり 広く貧困地域のために “服務部門”（訪ねてサービス）しなくてはならない。認識が高

まり 作風が変わり さらに一つの積極的で実体に合った計画と実施計画にふさわしい措置が構じられれば 貧困脱出のための事業は迅速に展開でき 逐次深めることが可能である。

貧困地域の変貌を真剣に援助することは一つの意義深い 重要な任務であり 我々地質鉱産部門は実力を備えた 雄大な技術陣を有しているのであるから 30数年の地質事業で蓄積した大量の地質資料をうまく運用すれば 広い貧困地域の鉱物資源の豊かさをさらに増大させることになるはずである。我々と貧困地域の人民は一体となることが必要なだけで 実際ががっちりと一件一件を解決していけば 貧困脱出を援助する事業は必ず成果を見るであろう。

以上の主張の内容は率直だけでなく 幅広く そして具体的である。そこから 貧困地域の住民の救済と富裕化に真面目に取り組もうとしている 中国政府の態度が十分に汲み取れるだろう。そして同時に 地質学と人間との係わり合い 日本にも当てはまりそうな 地質学の学徒の取り組むべき課題が示唆されているように思う。

この主張がアピールされて すでに1年有半。言うはやすく 行うは難い。中国での長い歴史の中で続いてきた貧困地域のその富裕地域化は その後どう展開していったであろうか？ それを今から見てみよう。

### 地質鉱産部は語る

地質鉱産部の最初の間接総括とも言うべきまとめは まず1987年1月12日付けの「中国地質報」に曾錦華の署名で掲載された。

このまとめによると 中国地質鉱産部は速やかに貧困地域の経済の様相を改めるという中央政府の決定を真剣に受けとめて 1986年の1年この方 貧困地域のための

探鉱 地下水探査 土木調査 環境改善事業 人材育成などに取組んだ。そして統計はまだ不完全だが 1986年に地質鉱産部所管の諸機関が重点的に援助すべき貧困県と定めた県は232県 それらの地区に対して設定した貧困救済課題は604項 投入した資金は4,120万元 同年内に貧困地域での鉱業開発と建設計画などに提供した各種地質報告は376編 新たに開山した民間鉱山(非国営鉱山)のうち 技術指導した鉱山が412カ所 そしてすでに指導の効果が現れている鉱山が157カ所である。そして 国(や地質隊)と県・村落などの共同経営鉱山が105カ所 すでに効果顕著な鉱山が23カ所であり 多くの県や郷がすでに鉱業を地方経済のトップ産業にしているとのことである。また 地質鉱産部は貧困地域の主な水欠乏区 風土病多発区のために地下水の探査と飲料水・生活用水の改良に努力して新たに1,363井の井戸を完成し これらの地域の8,000万人に近い人々の生活用水と生産用水の問題を一応解決した。さらに さまざまな形で地方大衆のために地質相談や採鉱指導を行い さらに農民に貧困脱出・富裕化への道をつけるべく 合計1,000人近くの農民の参加を得て地質と採鉱技術の教育・訓練学校を開き 一応の成果を得たようである。

この間 地質鉱産部は部が持っている能力の特徴を十分に発揮すること 貧困救済を重点とした地方への援助の中で資源の豊かさを経済の豊かさに変えること 早いスピードで貧困地域が自ら経済的な発展を遂げられる能力を備えることに意を注いだ。貧困脱出を助ける事業を為し遂げるため 全国の各地質鉱産局はいずれも作業班を組織し 「旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮」地域に入って調査・研究し その中でさらに重点地域を選び マンツーマンの指導を行い 現在も行っている。

たとえば 江西省地質鉱産局は古い革命根拠地である会昌県を対面的(マンツーマンの)支援県に選び 調査研究した結果を基礎に鉱業を興こし それによって会昌県の工業総生産高がやがて3,000万元に達するものと予想

できるようになった。本誌の第395号のp.30に紹介してあるように 1985年にはこの県の一部の鉱山で酷い事件があるにはあったが それも収まって 現在の会昌県では三つの稀土類鉱山がすでに新規生産に入り この3山だけでも1986年の希土類酸化物の生産量は23t 生産高が80.5万元に達すると見積られている。

また 河南省地質鉱産局第三地質隊は 信陽県に超大型と評価済みのパーライト鉱床を提供し 現在 信陽県にはちょうど100カ所の採掘場 100カ所の加工工場があり 採掘量はすでに22万t 累計生産高は1,128万元 利益は304万元に達している。同県の竜家村はそれまで住居がすべて薬作り 食糧の収穫は半年分がやっとであった。それが鉱業開発に参加してから 家は斬新な煉瓦作りになり 一人当りの平均収入が100元足らずから2,000余元に増えたのである。

さらに 山東省地質鉱産局は 臨沂地域の6県を重点的に援助し 同地域の水の欠乏という厳しい実状にもとづいて 昨年40余万元を投入して水理地質調査を展開し 水の欠乏に苦しむ県 郷 村に水井戸を掘り それによって人と家畜用の水問題を解決し 水問題を重点とした貧困救済事業を為し遂げた。彼等は前後して 同地域の6県9郷11村において14の井戸を掘り うち12の井戸から良質の水が得られて その11村の人畜の飲料水の問題を解決したと同時に 14,000ムー(約280町歩)の水田への灌漑用水も確保したのである。

地質鉱産部はさまざまな方法を取りながら 持てる技術と知恵を発揮し 技術指導を行い 人材を養成した。たとえば 陝西省地質鉱産局は相前後して32名の技術者を派遣し 彼等を地方人民政府の技術顧問に任命し また河南省地質鉱産局は河南省の20の貧困県にそれぞれの県の地質と鉱物資源を熟知した幹部技術者を派遣し 彼等を長期にわたって地方での技術指導に従事させている。さらに 多くの省の地質鉱産局はマンツーマンの支援を必要とする県に おおむね数年間 貧困救済の見



第5図

遼寧省本溪鋼鐵公司では 大明山にオートメ化した石灰石採掘場を建設し 稼行中である。(“中国画報”1965.1)

通しが立たなければ帰らない決意の貧困救済班を派遣している。

以上の紹介から 当初に述べた中国地質鉱産部の貧困救済・富裕化に関する主張（アピール）の実行状況が大雑把には説明できるだろう。陝西省や河南省などでの鉱山開発・環境地質改善などによる貧困救済事業の一端も触れられている。これを さらに具体的な事例によって深め 実態を鮮明にしたいと思う。

### 地質隊来りて カワ族富む

雲南省西盟カワ族（カーワー族）自治県は中国とビルマとの国境に接する辺境の小県で 1980年以前には県全体の人口が57,000人 国からの借用米が最高400万斤/年（約2,300t/年）に達するという貧乏県であった。ところが1981年に雲南省第5地質隊が西盟に入り 阿莫鉱区で中規模の錫鉱床を発見した。同地質隊の発議によって 1982年 西盟県は50t/d 処理の錫鉱選鉱所を建設しカワ族の手で1982年から1984年末までの間に166.4tの錫精鉱を生産し 297万円の収入を得たのである。

同県の阿莫郷の阿莫村はそれまで貧しいことで鳴り響いたところであり 一人当たり平均年収が60元に過ぎず 少ないことでは県下第一であった。この村と地質隊の一つの分隊（地質大隊を構成する最小単位）が手をたづさえ地質労働者が絶えず村を助けることによって富裕化への道を探り 現在では全村120戸がすべて千元戸となり そのうち5-6戸は万元戸となりつつある。カワ人は豊かになり 阿莫村の中国共産党支部の書記 陳岩党は興奮気味に次のように言った と1986年1月20日付けの「中国地質報」は書いている。

「地質隊が来てくれてから わしらに金持ちになる道

が開けた」

現在カワ山地の青年の中には腕時計をしている者もいるし テープレコーダーを持っている者もいる という。

この事例は 先の主張に先立つこと5年の1981年に始まる事柄である。前述の主張や後述の「決定について」が公表されるかなり以前から 鉱業開発などによる貧困救済問題は中国国内で議論され ある程度の方向づけや或いは地質隊の自発的建議は歓迎されていたのであろう。

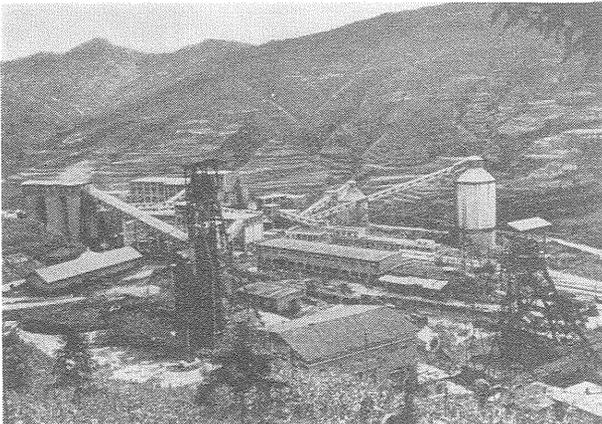
さらに 紹介を続けよう。

### 河溝村の人々

ところは長城の麓 燕山の懐深い河北省承德地区は経済的な後進区であり 交通も不便な山地である。この地に常駐する河北省地質第4隊は 多年にわたって同地の人々と深い付き合いがあり 多くの人々が探鉱に協力し 地質隊は同山地の人々を援助してきた。

隆化県伊遜郷の河溝村で この地質隊は一つの中型沸石鉱床を探索し 鉱量を把握した。同隊はこれを同山地の住民が速やかに貧困から脱出し 富裕化するために役立てようと考え 専門家を派遣して農民が合理的に採掘し 正しく鉱山を経営し 有効に開発するよう指導している。それによって 1984年に挙げた収入は20万元そして1985年にはそれが42万元に増えた。そのためこの貧しい村が一躍 隆化県近在に名を馳せる富裕村に変わり 県第二のテレビ村になった。村人は自費でテレビ塔を建て 昨年トラックが1台 トラクターが17台 大型大八車が10台増えたのである。

これは 宋克林と苗丹青という人が中国地質報の1986年1月20日付けに書いた記事から取上げたものであるが テレビもトラックも またトラクターも 個人で所有す



第6図

貴州省盤龍の炭鉱。小型の炭鉱であるが 炭質は瀝青炭で 結構経営は成り立っている。貴州省の炭田の多くはこのような小型のものであるが 数が多く そのため貴州省の石炭埋蔵量は中国の3特別市 22省 5自治区中の第3位を占めている。

（「中国画報」1983.11）

ることが珍らしくない昨今の日本から見ると 何だと思われられるかもしれない。しかし 大八車でさえ増えたことを隠さず喜んでる人々の喜びぶりを想像して 胸を熱くする人間だってまだ日本にも生き残っているのである。次は福建省での事例である。

### 福建省の1地質隊と貧困県

福建省地質鉱産局の福建東南地質大隊は 貧困救済事業を誠実に実施し 昨年 拓栄県 屏南県 寿寧県 安溪県 福鼎県の5県のために5項の探鉱課題を引き受け 葉蠟石 陶土 稀土類 珪石などの鉱床を探索試験によって把握し それぞれの地ですでに開発に入っている。その経済収益は 今のところ良好である。

昨年年初頭 この地質大隊の総責任者と技師長は前後して福建東部と南部の幾つかの貧困県を訪れ 積極的に働きかけて 県との間で貧困救済のために共同するという約束が交された。そして できるだけ少ない投資 短い期間で 素早い効果を挙げることが可能な幾つかの探鉱課題を設定して 地質大隊は20万円の資金を提供するとともに 地質事業従事者を抽出して五つの探索班を組織し それがそれぞれの県に派遣されて鉱床探査を展開した。

彼等は 拓栄県城の郊外で鉱量70万t (同県の陶器工場に70年間供給可能) の一つの陶土鉱床を把握し さらに屏南県の双溪で二つの珪石鉱床を発見して同県にシリコン鉄 シリコン合金の原料を提供し 安溪県で多くの稀土類鉱床 福鼎県で石綿鉱床をそれぞれ把握・確認して各県それぞれにすでに開発に入っている。また一つの地質分隊は寿寧県の平溪郷で一つの葉蠟石鉱床を探索・発見し 鉱量80万t と評価したが そのうち工芸彫刻用の材料となるものが18%を占め そのt当り販売価格は156元から250元になる良質のものであった。現在 平溪郷は杭州から石材彫刻の専門家を招聘し 彫刻工場を開く準備を進めている とのことである (中国地質報 1987. 1. 26から)。

貧窮した農民を助ける上でとくに歓迎される鉱種は もちろん「金目」になるものである。そういう意味では 陶石よりも金 (gold) の方が効果的である。そのためであろうか 山金や砂金の開発による貧困脱出の試みは その例が非常に多い。ではここで 幾つか金鉱による貧窮農民の富裕化への事業例を紹介する。

### 河南省の楊寨村で

中国地質報 (1986. 1. 20) 掲載の常治国の記事によると 山深い河南省靈宝県朱陽郷の楊寨村では とっくにつぶ

れかけていた農民採金業が地質員の技術指導と援助を受けて 見る見るうちに活気を取りもどし 農民の採鉱熱はますます高くなっている。

楊寨村と国営秦嶺金鉱山はそれほど遠く離れてはいない。近年来 農民たちが同鉱山周辺で金を採掘しているが 採鉱知識に欠けているため 1984年には3万元を損じた。そこで1985年の4月 楊寨村の中国共産党支部は 小秦嶺鉱区で地質調査・鉱床探査を実施中の河南省地質鉱産局地質調査第一隊第八分隊を訪れ 同分隊の専門家たちに地質相談と技術指導に応じてくれるよう頼み込んだ。同分隊はすぐに3名の地質員を派遣し 採鉱を援助し それによって農民は6カ所の可採鉱体を採掘できるようになった。さらに 地質員たちは坑道の位置の決定に細かな注意を払い そして熱心に採鉱技術を伝授した。それによって 農民の採掘坑道の掘進速度が非常に早くなった。4カ月の努力を経て 6本の坑道全部でそれぞれ鉱体に達した。それ以降村全体ですべてに金鉱300t が採掘され それを売却して得た収入が80万元を越え 今も増え続けている。そして今では村の幹部や一般の村民は人に逢うたびに 地質隊の働きや人柄のすばらしさを誇らかに語っているという。

### 兩地質隊と藍田県の金鉱

陝西省地質鉱産部と西安市の指導部の根回しによって 最近陝西省地質鉱産局と西安市藍田県は一つの合意に達し 藍田県で調査中の同局第6地質隊 同第7地質隊と同県が共同探査して 同県の金鉱を開発することを決定したと1986年6月27日付けの「中国地質報」が報じている。同紙によると この決定後 西安市の赫延政副市長 藍田県の劉日恒県長の一行は開発工事を実施する金鉱区を視察し 地質労働者を慰問している。

藍田県は 西安市に属する5県のうちでもっとも貧しい県である。昨年来 陝西省地質鉱産局の第6地質隊は同県を優先的に調査して 一つの大型石灰石鉱床の鉱量を算定・評価すると同時に 湘子岱で有望な一つの変質岩型金鉱床を発見した。それを引き継いで 同第7地質隊が本年 同地で砂金の探査を展開した。それから この資源探査と開発のテンポを早め 開発が遅れた地域での新たな建設を支援するため 陝西省地質鉱産局の張徳新副局長が率先して西安市に赴き 関係指導部に状況を説明し さらに同市の関係事務部門と兩地質隊の責任者および西安市の赫延政副市長とともに藍田県に赴いて協議し 共同の意向を取りまとめ 陝西省地質鉱産局と西安市藍田県が友好機関になることを決定した という経過をたどった。

同意書の内容はこうである。陝西省地質鉱産局



第7図  
1983年に青海省の海西自治州牙沙固地区で産出した重さ3,561グラムの砂金。Au品位は85%。  
（“中国画報”1986.3）

の両地質隊は当該金鉱探査のスピードを早め 藍田県は強力な協力と援助を行い 便宜を供与し 自発・互惠・互利の原則の下で双方が一体となり 藍田県の金鉱資源に対して探査から開発・採鉱 そして鉱石処理を共同して実行すること 地質隊は藍田県に数名の技術顧問を派遣し さらに藍田県の要求にもとづいてその他の鉱物資源も探査すること となっている。

### 漢水・揚子江流域の砂金

これは 甘理明という人が中国地質報の1986年3月3日号に書いた事例である。彼はまず冒頭で こう述べている。「漢水-揚子江流域から“金の卵”を抱え出すことは出来るのか 出来ないのか?」と。彼が詰問調で書き出しているのには 理由がある。それは湖北省地質鉱産局の砂金開発への取り組みのスピードアップを迫っているのである。

湖北省地質鉱産局が漢水・揚子江流域で全面的に砂金の調査を展開すると宣言したのは 1986年2月2日閉会の湖北省鉱産資源探査会議の席上である。これが第一遅いというわけであろう。周知のように 砂金は金の重要な供給源であり 湖北省の金採掘の歴史は非常に長く 鉱床は各地に広がっているのに 現在までのところ 湖北省地質鉱産局は大型・中型の金鉱床と大型の銀-金鉱床などの初生鉱床を探査しただけで 漢水・揚子江流域の砂金については 若干の地質調査によってある程度の鉱量を把握したに留まっていることも 甘理明には我慢できないことのようにである。しかも その地質調査

・鉱床探査に従事した人々が 鉱床生成条件の分析の中から漢水・揚子江流域の河川湾曲部 砂洲 河岸段丘が砂金採掘のよい対象になる と早くから主張していたのに というわけである。

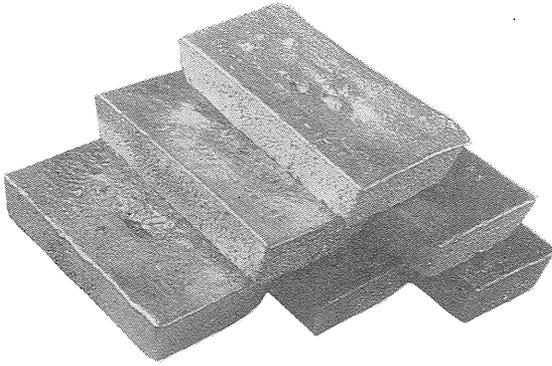
しかし湖北省地質鉱産局は 彼が言うほど手をこまねいていたわけではない。同局は すでに1985年の5月から土木技術者を組織して資料の収集を始め 漂砂鉱床専用の設備としてサンドドリルの製造を開始していたし 2年をかけて広範囲の探査に入り 漢水・揚子江流域の湖北省領内部分でその本流と支流を踏査し “第七次5か年計画”の期間に砂金鉱床の探査・採掘の分野での新たな局面を開き そのことによって湖北省の四つの近代化の建設と「旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮」地域の人々の貧困脱出・富裕化に貢献しようとしていたのである。甘理明の詰問的な論調は 中国の鉱山開発による貧困救済への熱意を代弁しているものと受けとめたい。

### 山東省河西金鉱 年間産金量2万両突破

「山東省の招遠県蚕庄鎮の河西金鉱山は1986年に20,086両（1両≒37.3グラム）の金を産出し 前年よりも5,001両多く 全国の村落経営鉱山の年間産金量としては断然トップの座に着いた。この鉱山は792人が働く一つの村営企業で 1985年には15,086両の金を産出して人々を大いに喜ばせ全国第一級として 冶金部から黄金生産先進鉱山に与えられる金杯賞を受けた鉱山である。1986年 この鉱山は懸命な努力をして金の開発速度を早め 18人からなる探査隊を組織し まず品位7g/t 含金量合計2tの2鉱体を探査・発見した。同時に 国



第8図 陝西省潼関県で採掘された砂金。農民が個人採鉱者として河床の漂砂を椀掛けして集めたもの。潼関県で争いが起きたというニュースはないが 中国全体では騒動の対象の多くが金鉱であった。（“中国画報”1986.3）



第9図

河南省秦嶺山の砂金から精錬された金のナゲット。  
1個が5kg。中国の金保有量は南アフリカ共和国に  
連 続 アメリカに次ぐ世界第4位とのことである。

(“中国画報”1986.3)

産の一級の生産設備を導入して科学的な選鉱を重視し、  
工程を改善して選鉱能力を増やし、全採掘鉱石を機械選  
鉱に掛け、その処理量を1日100tに上げ、選鉱実収率  
をそれまでの94.9%から現在の98.8%まで高めた。そ  
のほか、彼等は生産管理を強化し、責任分担を明確にし  
て経済責任制を実行し、そのことによって労働者の積極  
性を引き出し、産金量の安定と生産の健全な発展を促し  
た。 趙東祥(中国地質報 1987.1.5)

は貧困地域の貧困脱出・富裕化を助け、同地の人民政府  
と住民の心からの称賛を受けている。

王家華(中国地質報 1987.1.2)

砂金の事例はこれくらいにして、錫の開発による貧困  
救済の事例の一つ紹介しておきたい。この事例は  
1986年1月6日付けの「中国地質報」で報告されたもの  
である。

### 黒竜江第二地質調査所 3金鉱床の評価を完了

「黒竜江省の第二地質調査所は昨年来、所外に対する  
事業の重点を貧困な山地地域と辺境地域に置き、貧困救  
済のため12の調査項目を設定し、現在すでに効果の早い  
収益の良い、四つの小鉱床の評価作業を終了した。

同所は、マンツーマンの援助方法を採用し、積極的な  
探鉱および「高品位・近距離・浅部賦存・採掘容易」な  
鉱床の評価研究を行い、その中で昨年に探査し、かつ評  
価を終えた砂金鉱床が3鉱床、その含金量は合わせて  
1.5tであった。なお、同時に珪藻土鉱床の探査を  
終了し、大理石の調査を進め、後者の地質鉱量を1,300  
万tと見積った。

同所は、貧困地域の経済建設の重要な政策決定に当  
つての科学的な説明や議論およびその地下資源の開発  
・利用規準の制定にも積極的に参加し、竜江省など3県  
の近い将来における鉱産資源の開発・利用についての協  
議にも参画した。

その鉱産資源の実態を基礎に、同所は貧困地域の住民  
が鉱山開発に乗りだすことを進んで援助し、たとえば  
甘南県鼎山郷のパラライト鉱山の経営を援助して1986年  
の同鉱山の利潤が25万元に達するのに貢献した。同所  
の技術指導・相談センターは同地の鉱物資源を利用して  
クレンザーを生産するに当り、その配合と採掘の方法を  
黒河市村落企業局に伝授し、現在までに1,000tが生産  
されて純益3万元を挙げている。この第二地質調査所

### 雲南省来利山に錫鉱山

「昨年11月29日までに、雲南省梁河県来利山の大型錫  
鉱区の3地区で、すでに14の小型錫選鉱場が作られ、稼  
働している。

これらの小型錫選鉱場は、梁河・騰冲両県の三つの郷  
の農民組合が建設したものである。彼等は10戸、21戸  
37戸がそれぞれ1グループを結成し、まず各県の鉱産管  
理委員会に申し出て合法的な手続きを取り、採鉱許可証  
の公布を受け、各戸がそれぞれに250元、300元、500元  
といった金額を出資し、一組の小型機械設備を購入し、  
地質相談・技術指導を願い出て、広西錫鉱山の2名の技  
術者が自分達のグループに入ることを強く要請し、指定  
された鉱区内の担当分区の採鉱を始めた。これらの農  
民は毎日一戸一人の労働力を投入し、たとえば、それぞ  
れの採鉱場付近に20㎡ほどの簡易機械室を建て、1台の  
12馬力ディーゼルエンジンと1台の小型クラッシャーを  
置き、粉碎鉱の貯鉱槽、竹で編んだ篩、淘汰盤による選  
鉱方式を採用して、毎日40ないし50kgの砂錫を生産し、  
通常1か月に5,000余元の資本回収に成功している。  
この地区の農民が資本を集中して鉱山を経営するう意味  
を会得したように、中華人民共和國 鉱産資源法(本誌第  
395号参照)という、全50条の法律に沿った採鉱を開始す  
ることは、理想的な、貧困脱出の新しい道である」

次は、安徽省霍山県における一地質隊の成果を歌った

記事を紹介する。一つの鉱種に把われず 可能なかぎり多種にわたって有用鉱物資源を探索し 地域住民の開発に託した一例である。

### 霍山県での三一三地質隊

「安徽省地質鉱産局所属の三一三地質隊は この数年古くからの革命根拠地であり 窮乏している霍山県の地質調査を行い 同県に可採鉱量 250 数万 t もの鉱産資源を提供した。その各鉱床の生産可能な鉱産資源総量は政府買上価格にして 875 万元に達するものと見積られている。

霍山県は大別山脈の北麓にあり かつて革命に積極的に貢献した地区であるが 人々の収入が非常に少ない地区でもある。同県の経済の発展を助け 人々が速やかに貧困から抜け出られるよう援助するため 三一三地質隊は 金 クロム 砂鉄など13種の鉱種の合せて20を越える鉱床を探索・発見し 現在すでに採掘されている鉱床がそのうちの金鉱 砂鉄など9 鉱床で 可採鉱産物の総価格は423万元に達する とされている。

砂鉄鉱床は同県内に広く分布し 選鉱しやすく 人々の作業も容易であり 貧困脱出の重要な道となりつつある。現在 全県が砂鉄の採掘と選鉱のブームを呼んでおり 多くの農家が農閑期だけでなく 農繁期でも時間を作っては選鉱をやっている。仏子嶺の永康橋村では砂鉄鉱山の経営を始めてから一戸当たり平均 800 元の増収となり 農業を営む潘声敬一家 5 人では 2 人が採鉱・選鉱に従事し それまで壊れかけた三間の家に住み 衣

食にも困っていたのが 砂鉄の採掘・選鉱を始めて間も無く 四間の煉瓦作りの家を作って 自転車やミシンなどを買い入れ 今では1,000元を越える貯金がある」。

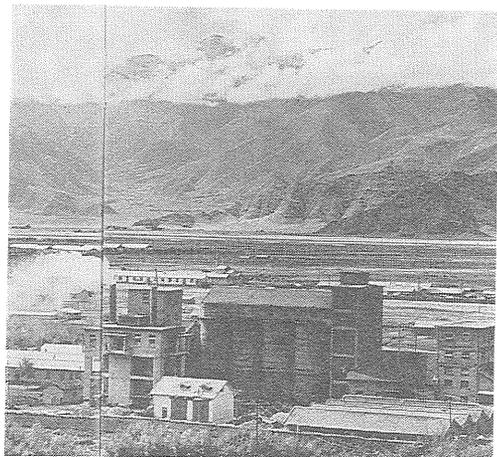
中国地質報 (1986. 5. 9)

この記事によると 現在 三一三地質隊は霍山県のすでに建設を終えた鉱山に対して技術指導を行い 地質相談に応じ 新たに幾つかの小型鉱山建設の援助および金鉱探査の成果である 2 箇所の鉱床の委譲を決定した とのことである。

中国でもとくに有名な鉱山地域では この種の事業がどのように展開しているか このことも知識としては必要かと思う。そのような地域の一つとして江西省の贛南地方を選び 情報を「中国地質報」紙に求めてみた。以下が1986年 5 月 9 日付けの同紙から得たニュースである。

「江西省贛南地方では 江西省の地質鉱産管理部門の指導のもと 「小鉱山開放」後の各管理業務が積極的に進められ 地方全体の鉱業が急速に発展している。

本地方は 中国の第二次国内革命戦争時代の中央ソビエト区(中央解放区の意味)である。昨年の初め 中国共産党江西省委員会の指導の下に 本地方でも現地の鉱産資源を活用して貧困から脱出しようと 大衆的な採鉱熱がまき起った。しかし 当初は管理事業が行われず 時間にも限りがあったため かなりの県で鉱床の奪い合い 乱掘 鉱産物流通の混乱と言う現象が生まれた。そこで 住民の採鉱に対する指導を強化するため 江西省の地質鉱産管理部門の援助と督促の下で 中国共産党



第10図 チベットも次第に近代化されていく。そのテンポは決して早くはないが それでもチベットにとっては 一大変革と言えるだろう。写真は1965年ころのラサのセメント工場。(“中国画報” 1965. 11)



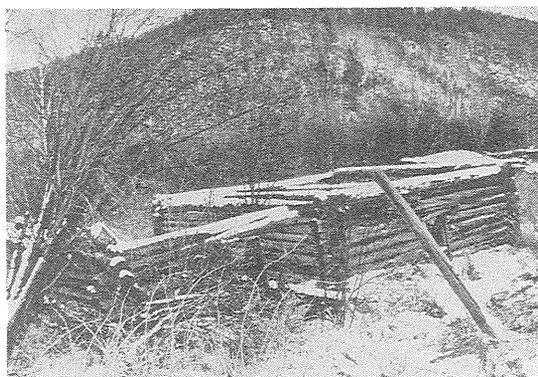
第11図 横断山脈の最高峰ゴンガ山の山麓にある巨大な湯の華の塔。地熱の活動がうかがい知れる。

(“中国画報” 1985. 2)

贛南地方局は措置を講じ 積極的な支持 合理的な企画 正確な指導を合言葉に 「小鉱山開放」後の各種管理業務の実施に尽力した。 会昌県(前述 p. 3)の人民政府は専門条例を制定し 鉱区認可制と統一買鉱を実行し 採鉱権を有する者はすべて国家に必ず納税し 水・土の流失を弁償し 環境保護の費用を負担することを義務づけた。 県の鉱山管理事務所は村落・集団・個人が経営する鉱山のために 発破係 通風技術係 電気技術係を統一して養成し 電線と水道管を統一して架設し 鉱山に電気を送り 水を引いた。

昨年下半年以降 この地方の全区18県・市で 国営集団 個人経営のタングステン 稀土類 砂金 石炭 砂 錫などの鉱山 採鉱場 炭坑がキラ星のように並んできた。 貧しい地方は面目を一新し 大きな変化を生んでいる。 たとえば 竜南県は昨年の工業総生産額の45%が鉱産所得であり 県全体の農民世帯の一人当たり年収は平均して100数元から308元に増大した。 また 尋鄔県は自ら軽稀土類鉱山を経営し 357万円の税金を取め 237万円の交付金を得 国家に280万ドルの利益をもたらした。 稀土類の鉱産が発展するにしたがって これらの県は県民の生活が改善されただけでなくそのほかの関連工業と関連経済も発展しつつある」。

この記事は小鉱山の開発で生じた混乱についても隠していない。 小鉱山が噴き上がるように興る様と避けて通れない私的欲望との葛藤 これに今後どのように対処されていくのか 間違いなく1986年10月1日施行の鉱産資源法で処理されるであろうが それにしても貧困救済と富裕化への道の険しさを垣間見る思いである。



第12図 アルグン川河岸。西口子部落近くに残る砂金掘りの住居跡。丸木小屋に夢がふくらんでいたのである。

(“中国画報” 1987. 7)

### 多彩な動向

中国全体で13万を越え 15万にも達しようという勢いの非国営鉱山である。 その中の貧困救済を主眼とした鉱山の全貌を知ることは 容易なことではない。 中国中央政府自体が把握しきれているかさえ 疑わしいくらいである。 しかし筆者の悪あがきであろうとも その鉱山についての認識を補足する意味で いくつかの省が関連する事業方針として打ち出し 決定している事項の簡単なまとめを紹介しておきたい。

**雲南省：**雲南省地質鉱産局は 辺境の少数民族地域での地質事業を強め 32の県に優先的に仕事を提供し 各民族の人々が喜んで鉱山の開発に務め 生活が豊かになるよう援助している。 雲南省の少数民族が集中している貧困な県は 主として西部 西北部 北部 東北 東南部に分布しており これらの地域は 豊かな錫 タングステン 金 銀 銅 鉛-亜鉛などの鉱産資源を大量に埋蔵している所である。 これらの地域の姿を一新するため 雲南省地質鉱産局は 近く次のよう事業を重点的に実施することを決定した。

すなわち 貧困県が存在する怒江峡谷の怒江錫鉱帯の有望性の調査と高黎貢山脈の宝石の探査 同じく貧困県が存在する雲南省東南部紅河流域の哀牢山脈北部山地の金鉱と南部の宝石・含銀多金属鉱床の総合調査 同じく東北部の烏蒙山地 すなわち四川・雲南・貴州省境地域の石炭と硫黄の総合的な有望性の調査と北部の四川・雲南銅-鉄鉱床帯の総合調査および中部の岩塩鉱床とそのカリ含有条件の調査などである。

最終計画によると 適時に開発・採掘にふさわしい露頭もしくは鉱体を提供し それぞれの住民の開発・採掘・利用を指導することになっている。 そのため雲南省地質鉱産局は毎年 同省に対する国家投資予算の15%を支出し 指導性を発揮して計画を衆知徹底し 貧困県の救済に役立つ可採鉱産資源の提供にその予算を使用し それぞれの地域が提起することを優先的に配慮し 経済地質的に優れていると説明できる鉱産資源を探査項目とし 各地域に適した開発計画と管理を積極的に援助する。 そして それぞれの該当地域の「貧困救済」に関連して近々に求められるはずの資料と各地の探査結果は 安価もしくは無償で提供され 人々に利を譲ることになっている」。

(中国地質報 1986. 3. 31から)

**山西省：**「山西省地質鉱産局の二一二地質隊は山西省東南地区6県の貧困な山地で鉱業の開発を助け 治水を援助している。

1984年 この二一二地質隊は平順 壺関 武郷 沁水

など六つの貧困県に多くの地質技術と作業工程のノウハウを無償で提供し 村落企業の経営を援助し 2年で10項の指導・相談項目と地質調査工程の作業課題への取組みを完了した。平順県に竜鎮鉄鉱の調査・探査報告を譲渡し あるいは壺関県の城関と武郷県の石壁の住民と家畜が長期にわたって水の欠乏に苦しんでいた問題を解決した。この地質隊にコンサルタント公社が設立されてからは その公社を窓口にして 急を要する地方に駆けつけては地質上の問題に取組み 平順 沁水などの県で大理石 珪石 石灰石などの鉱床を調査し 山地の鉱産物の開発を支援するために大量の地質・鉱床資料を提供し 村落・個人などの共同経営鉱山の開山に際してはそれに対する具体的な指導を行った。1985年に二一

二地質隊は“山西省東南地域国土整備規定”と“山西省東南地域水資源評価集”の作製に参加し “長治市鉱産資源概況” “沁水県鉱産資源開発状況の分析と提案”などの報告を提出した。彼等は日頃から鉱産資源の開発と利用の情報を提供して 地方人民政府の政策の決定と経済計画の決定への優れた参謀の役を果している。

(中国地質報 1986. 3. 31から)

青海省：「青海省地質鉱産局は 貧困地域の富裕化を助けるため 該当する地域での鉱山開発政策を緩和あるいは開放し 貧困地域が必要とする地質分野の成果およ

び技術指導・相談業務を無償ないし小額で提供・実施し 同地域の村落集合体と個人の鉱山開発の審査・認可条件を緩和し 鉱山開発の手続きの費用と資源管理費の免除ないし減額を行っている。全国的な視野による配慮が必要なことと全国的な基本建設投資が多額にのぼるという状況の下では 貧困地域で経営が許されるのは小型鉱山である。

これらの地区の鉱山開発が必要な技術を備えていないという問題を解決するため 青海省地質鉱産局は関係地質隊に地方を援助し 砂金の採掘とパンニング 山金の採掘と回収 小型鉱山の坑道掘進技術などの短期教育訓練班や現場観察・教育班の派遣を呼びかけている。

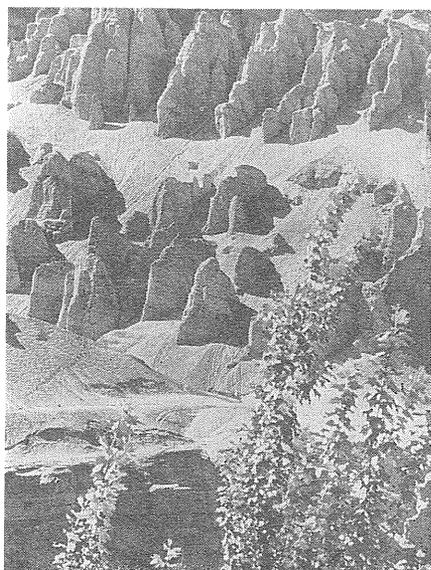
(中国地質報 1986. 3. 31)

安徽省：「安徽省地質鉱産局は 1986年に貧困地域に配置する地質事業を28項目 投入するボーリング作業量を8,700m 坑道探鉱量を210m 総投資額を450万元と決定した。

そして同局は 幾つかの地域が急いで求めている「短期・平易・快速」で処理できる地質分野の課題に重点的・優先的に取組み 貧困地域の水理地質 土木地質 環境保護地質 観光地質資源の調査を強化し この2・3年以内に鉱床の生成ポテンシャルが高い貧困県で 幾つかの地方的な開発・採鉱に適した 経済価値の高い 収益の大きい 賦存場所が浅い 品位が高い 採掘し易い小型鉱床を発見し さらに風土病流行地区の地層・岩種 その地貌と環境の水理地質条件 病原となっている元素の含有率と病状の関係を積極的に明らかにするために奮闘することを確認した。」

(中国地質報 1986. 4. 21)

以上のように 中国では貧困救済を重要な柱の一つにして 地質事業を推進している。この一文の本論の最初に地質鉱産部の主張「貧困地域の様相を変えるために多くの仕事をしよう」を掲げたが 中国では どのような政策も 国全体に係わるものであろうと 一つの県一つの村だけの場合でも それぞれの行政単位に対応する共産党組織や行政機関が責任を持って基本的な政策を提起し 国民 県民あるいは村民に宣伝し その討議や理解を呼び掛け そしてそれぞれの機関がその宣伝 討議の中での反応や意見を考慮しながら討議を重ねて 正式な政策とか方針を出す習わしである。では 地質鉱産部の主張「貧困地域の様相を変えるために多くの仕事をしよう」が発表される前に それに関連したどんな政策が提起されたであろうか、それは 本文の第1ページに1984年9月30日の中国共産党中央委員会と國務院の通達および同年の中央委員会第一号文書としてその文書



第13図 新疆ウィーグル自治区のトルファン地方は四季を通じて風が強い 乾燥気候の土地である。そして風は自然の芸術家。この風食砂丘に思い浮ぶものは。(“中国画報” 1983. 5)

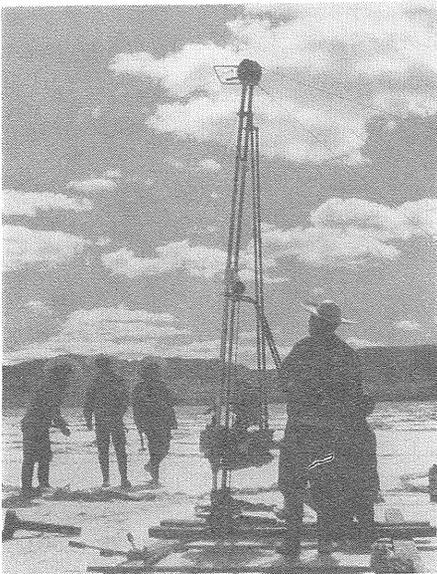
の存在が明記してある。しかし 中国共産党や行政機関の組織内での提起内容は 筆者にはわからない。ただ幸いにも 宣伝・討議後の最終的な決定についてはすでに触れたように 「貧困地域人民の貧困脱出・富裕化に服務する決定について」と題し 地質鉱産部の名で 「中国地質報」紙 (1986.2.3) に掲載された。これは今後の経過を予想する上では多くの事例を知る以上に重要と思われるので 以下にその全文を掲げる。

### 貧困地域人民の貧困脱出・富裕化に服務する決定について

1986年1月27日 中国地質鉱産部

1. 中国共産党第11回大会第3回中央委員会総会以来全国の農村の情勢はますます好くなっている。しかし農村経済には不均衡な発展の状態がまだ残っており とくに幾千万の人口を擁する地域がまだ貧困から脱出できず 大衆の衣食住の問題がまだ完全には解決されておらず その中の圧倒的大部分は山地であり 或る場合は少数民族の居住区や古い革命根拠地であり 或る場合は辺境地域である。これらの地域の人民の貧困からの脱出 富裕化を支持・援助することは 重要な経済的意義と政治的意義を持っている。

旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域 とくに10



第14図 中国地質鉱産部の1982年チベット地方塩湖調査隊が調査の重点としたツァブイエル湖での浅掘り試錐調査。(“中国画報”1983.5)

幾つかの貧困地域帯の多くの地域は鉱産資源が豊富に潜在し しかも地質事業と鉱物資源開発の程度が非常に低く 一部の地域は山崩れ 地沁り 土石流などの地質災害が頻発し 地質に係わる風土病が蔓延し 災害に抵抗する能力に乏しく そのほか少なからざる地域が水の欠乏に苦しみ しかも水を探すのも困難な状況にある。したがって地質鉱産部は 貧困地域の人民の貧困脱出・富裕化に服務するため 多くの事業を行わねばならない。

現在 10幾つの貧困地域帯の多くでは すでに1/200,000の広域地質調査と水理地質調査が終了し 少なからざる地域で農業用水と牧畜用水の調査と探査が完了し 1,000をもって数える鉱床および住民・家畜の飲料水の水源が探査・把握され さらに最近では貧困地域のために鉱物資源 水理 土木 環境 地球物理探査 地化学探査 化学分析 測量 探鉱 さく井機械修理など多方面にわたる地質相談と技術指導のサービスが行われている。

陝西省山陽県 四川省万源県 湖北省竹溪県 河南省洛寧県 湖南省大庸県 甘肅省通渭県など一群の貧困県に駐在する地質隊がその地方の採鉱 揚水 鉱山経営 水質改良を支持・援助する典型的な事例もすでに現れ 現地の人民の貧困脱出・富裕化のために一定の貢献をしつつある。しかし 総体的な状況からすると 貧困地域の貧困脱出・富裕化を支持・援助し 旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域の経済の発展を促すためには 地質鉱産部門がさらに広範な そしてさらに効果的なサービスを提供する必要がある。

2. 地質鉱産部門全体のすべての専門家・職員 すべての労働者は 人民に服務する根本理念を堅く心に刻み 力を尽して中央人民政府の指示の精神を貫徹し 旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域の経済発展に服務し 地質事業の重要な業務が指導できる思想を確立しなければならない。各地質鉱産局 石油地質局および貧困地域で作業する地質隊は この項目を重要な課題として日程に乗せ 行動内容をしっかりとつかみ 措置を構じ 努力して以下の4項の目標を実現する必要がある。

その一は 2ないし3年以内に全国250の貧困県でそれぞれ少なくとも一つの 地方に適した採掘が可能な経済価値の高い 収益の良い小型鉱床の鉱山評価を行うこと その二は “第7次5ヶ年計画”の期間に70県ほどの生活用水欠乏県と10地方の風土病蔓延県のために水源を探査し 良質な水を提供すること その三は 1995年までに旧革命根拠地・少数民族・辺境・貧窮地域の1,000の県のためにそれぞれ少なくとも一つの可採小型

鉱床の鉱山評価を行うこと その四は 各省の地質鉱産局や石油地質局が「しっかりと手を結び それぞれに合った援助をする」という方法を取り 重点的に1・2の貧困県の貧困脱出・富裕化のために 地質相談・技術指導のサービスをすること である。

以上の目標を実現するには 次の10項に従って上手に服務する必要がある。

1) 鉱物資源の基本的な情況と基礎的な地質条件を調査・解明し 旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域のために 国土の整備と計画的な建設を進め 地質資料と鉱物資源を提供する。

2) 地質と鉱物資源の面から自動的に当該地域の経済建設の重大政策決定の技術的な分野に参画し 質疑に答え 参謀の役割を果す。

3) 積極的に鉱物資源の探査作業を配置する。当面は重点を今なお衣食住の問題が解決していない もっとも厳しい貧困地域に置き 鉱床生成の条件を備えた地区を優先して調査と探鉱を配置する。

4) 「高品位で 場所が近く 賦存位置が浅く 掘りやすい」小型鉱床を探査し 積極的に評価作業を行い 鉱種の点では地方の工業と農業の発展にとって急務になっているエネルギー源 建築材料 化学工業原料資源および経済収益が高く 輸送量が少なくて済む金・錫・宝石などの鉱産物の確保を優先し 3年以内に各貧困県に少なくとも一つの 地方での採掘に適した 効果が現れるのが早い 収益の良い鉱物資源の開発を事業項目に入れる。

5) 生活用水の欠乏に苦しむ山地と水に原因する風土病の蔓延地域のために地下水源を調査・観察し 優先順序を定めて水不足の厳しい貧困県の人・家畜用の水および風土病頻発地域の貧困県の水の改良と風土病の予防のために地質資料を提供し 客観的条件が厳しい水不足地域と風土病頻発の対策が難しい地域に対しては 住民の転地策を研究し 提起する。

6) 土木地質と環境地質の事業を展開する。その重点を地方の小型水力発電所ダムの基盤と山岳地域の道路建設の路盤の土木地質条件と岩石・土壌の土木工学上の性状の調査研究に置き さらに環境地質調査を展開し 山崩れ 地汙り 土石流 土壌流失などの地質災害を調査し 予知する。

7) 観光地質事業を展開する。カルスト地形や地貌などの国土の観光資源を調査し 山岳地域の観光資源を開発し 温泉・鉱泉の調査の展開に留意し その開発と利用を援助する。

8) 貧困地域の人民の鉱山経営を積極的に支持・援助する。当該地域の鉱物資源の特徴と市場の情況にも

とづいて その地方の発展に役立つ採鉱企業の優先箇所を選定するために 情報を提供し 計画立案に協力し 参謀の任に当る。探査 評価 開発 人材養成などの面の技術指導・地質相談に従い 服務する。地質隊は技術 資料 成果 資本などさまざまな提供形式でもって 地方との共同鉱山経営を実施し それによって速やかな効果の発揮を期する。

9) 現地人民政府と協力し 鉱物資源の開発と管理の仕事を援助する。経営管理の改善を援助し 技術的な問題を解決し 管理方法を定め 計画を正し 採鉱許可証の発行を審査・決裁し 監督・検査に任じ 鉱山紛争を処理する。

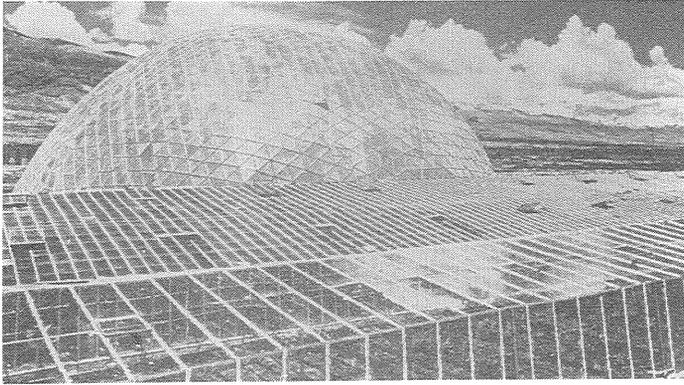
10) 地質鉱産部門の人材 技術 資料の優越性を発揮して 旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域の人民のために上記以外の分野のサービス 技術指導・地質相談 人材養成に努力し 同地の経済の自らの発展能力を強めさせる。

3. 貧困地域人民の貧困脱出・富裕化に服務することは地質鉱産部門が中国共産党中央委員会の指示を貫き その精神を汲み取って実行すべき重要な政策である。したがって 各級の機関は任務として重視しなければならない。

貧困救済事業に対する指導を強化する。各地質鉱産局は 管下の省・地域の貧困救済事業の指導を十分に強め 一名の指導者を定め この事業の責任の所在を明らかにし 確実に責任を負わねばならない。地質鉱産部および該当条件を備えた地質隊は「しっかりと手を結び それぞれに合った援助をする」方法を取り 各自が支援すべき貧困県を確定し 作業を分担し 事実をしっかりと把握して良い結果を得なければならない。

貧困救済の計画を立てる。各地質鉱産局と関係地質隊はその持てる力を組織して 旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域に深く入り その経済建設と鉱物資源の開発・利用状況を調査研究し それぞれの地域の実態と結び付け 地質鉱産部門の有利さを十分に発揮し 需要と可能性を結合し 地質事業による生きた貧困救済計画を立て 年を追ひ 項目を追って実行していく。

貧困地域への資金の投入額を適宜増加させる。“第7次5ヶ年計画”の間に旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域での地質調査・鉱床探査費を“第6次5ヶ年計画”での地質調査・鉱床探査費よりも増額する。旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮地域で服務するための資金は 国家予算と社会収入から支出される。貧困地域での当面の主な資金は地質調査・鉱床探査費として使用され 貧困地域の貧困脱出・富裕化を支持・援助す



第15図 海拔4,300mにおよぶチベットの羊八井地熱区で地熱が発電だけでなく鶏のふ化そして最近では野菜の温室栽培に利用されはじめた。写真は最新の地熱温室。面積は1,000㎡。すでに同じような温室が6ヶ所稼働している。(“中国画報”1982.9)

る一部の地質事業は予め計画に入れ その資金は国家から支出される。

緩和政策を堅持する。 貧困地域での地質事業項目に対する支出は一般地域の場合よりもっと打てば響くようにし 政策を一段と緩めなくてはならない。 これらの地域に提供する地質資料は地方の利益争いや民利の均等の原則にこだわらず 一般地域の場合よりも安くし 前納でなく 当該地域で営利が成り立ってから受けとるべきであり できることなら無償が望ましい。 鉱山事業を正式に共同経営にするのは一般に利益が上ってからにし 利益ないし資金の回収は分けあわねばならない。そして 当該地域の経済状態が改善され 経済効果が向上するにしたがって 逐次有償の範囲を広げていくべき

である。

一部の地域の貧困状態の改善は 長期にわたる苦難の事業である。 地質鉱産部門の各級機関は長期の服務という考えを必ず確立し 貧困地域人民に服務する地質事業を計画的に時間が掛かることも覚悟の上で実行し 成果を手にしなければならぬ。 実際から出発し その土地にうまく適合させ 長期戦を全面に短期戦を避け 有利さを発揮して現地鉱物資源を合理的に利用し さまざまな経営を展開し 各方面の積極性を引き出し 貧困地域の自力更生による経済発展の持続能力を強化し 貧困地域の様相を速やかに改善するために貢献しなければならない」



第16図 中国地質鉱産部1982年チベット地方塩湖調査隊によって調査されたツァプイェル湖。この塩湖に浮かぶ小島(左上)は石灰華が堆積してできたもの。その小島のまわりには いまなお湧きでる石灰質堆積物によって一種の土手ができつつある。

(“中国画報”1983.5)

この地質鉱産部の1986年1月27日の決定が地質事業による貧困救済・富裕化政策の天下に号命された初めではないかと考えられる。そしてもちろん それに先立って 1984年9月30日に前述の通達と第一号文書が出されて内部的に行動が起こされ 試行錯誤の道が始まったものと思われる。

それにつけても 地球上に貧困があってはならないと誰もが思うだろう。部分的であれ 貧困が無くなっていくことは歓迎すべきことである。 そういった意味で自分のことを棚にあげ 筆者は中国地質鉱産部のこの決定に注目するわけである。 さらに 地下資源に乏しい我が国とこの決定がもたらす結果との関係がどう展開するかということも 筆者は重視したいのである。そして その関係展開の基礎はバンドン精神と呼ばれる五つの原則 すなわち 主権尊重 平和共存 平等互惠 内政不干渉 相互不可侵の原則にある と筆者は確信するものである。

上記の地質鉱産部の決定はかなり具体的で 親切とも言える。すでに触れたように 試行錯誤の経験が決定文の表現に反映しているのであろうが 経営を成り立たせるには 中国の場合にはとくに苦勞もあろうかと思

われる。それは 中国が資本主義を経ないで 封建的農業国から一足飛びに社会主義体制を目指してきた過程での大幅な生産手段個人所有制の導入だからである。そのことの是非は専門家に任せ 貧困救済・富裕化への苦勞を知る上での適当な記事として 次の一文を紹介してこの稿を終わりたい。

### 村落・集団の小規模鉱区 いかにして経営をよくするか

倪 融 (中国地質報 1986. 11. 3)

「中国での“鉱産資源法”の実施の日に 中国地質学会鉱山地質専門委員会と浙江省地質学会鉱山地質専門委員会は 全国 100 余名の 小規模鉱山の鉱床地質・採鉱・管理に従事している科学技術者を集め 小規模鉱山を主題とした経験の交流 そして小規模鉱山の今後の発展に対する多くの重要な提案を受けた。

現在 中国には村落 集団 個人の小規模鉱山は13万を数え その生産物価格は全国の鉱業生産物の総価格の1/5を占めている。それらは 地方経済の発展 農村産業構造の調整 “旧革命根拠地・少数民族・辺境・困窮” 地域の人民の貧困脱出・富裕化の援助の面で まさに重要な働きをするものである。どのようにすれば小規模鉱山がうまく経営でき 小規模鉱山に健全な発展の道を辿らせることが出来るか? 科学技術担当者たちは次のように認識している。すなわち 「その地の事情に合わせ 地質を先行し 探査・採鉱と結合する」こと

が小規模鉱山の持続的発展の主要な条件である と。現在のところ 少なからざる小規模鉱山は地質と鉱物資源の産状が明らかでなく 完全な地形・地質の資料を欠き 乱掘の状態にある。浙江省江山県の某村経営の螢石鉱山は 深部の地質調査をやっていない状況の下で急ぎ採掘立坑を建設し その結果 投資した13.6万円の回収が困難な状況を生み出した。一方 浙江省武漢地区の東風螢石鉱業公司是 “地質を先行し 探査・採掘と結合する” の原則を堅持し 鉱山の地質調査陣を整え 鉱山の生産に供し得る鉱量を新たに 200 万 t も増やしたのである。

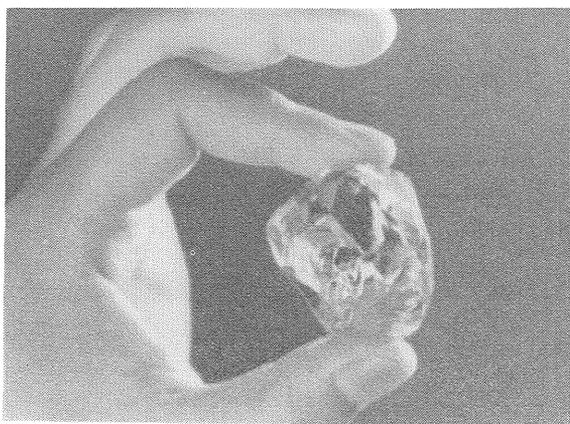
科学技術担当者たちは さらに“総合利用の研究を展開し 横の経済提携を活発にし 絶えず企業の経済効果・利益を高める” ことが小鉱山の強固な発展にとって不可欠な条件 と認識している。湖南省の一雄黄鉱山は雄黄を利用して副産物の白土 顔料 硫酸バリウム セメントを生産し 年間利潤が100万元以上に達している。浙江省臨安県の膨潤土鉱山は 鉱山の資源分類と総合利用の研究を強化して もともと生産していた t 当り55元の一種類の生産品のほかに t 当り 270 元の活性白土 同様に 1,200 元の小玻璃潰散剤などの生産にまで企業を進展させ 鉱山の経済効果・利益を高めているのである」。

### おわりに

中国では 村落・集団・個人がそれぞれ経営する小型の鉱山が1986年6月末にはすでに13万に達した(中国地質報 1986. 7. 4)。1987年末には それが15万に近づくものと思われる。それらの小規模鉱山が生産している鉱物資源は すでに中国での鉱物資源の全生産量の中で大きな比重を占めるようになり 少し古い統計であるが1984年の統計によれば 本誌の第395号で少し詳しく説明したように 全国の村落・集団・個人の鉱山が採鉱している鉱種は50種を越え 全国の主な鉱産物の総生産量の中で この種の鉱山が生産した石炭は全国の石炭総生産量の1/4 金など8種の有色金属は同じく1/5強 硫化鉄鉱は1/2 マンガンは2/3 建材は4/5前後を占めている(中国地質報 1986. 7. 4)。まさに塵も積れば山となるし 中国流に言えば「愚公山を移す」である。

我が国にこのような鉱山開発の進めかたを当てはめることはできまい。中国ならではの感が深い。筆者は今後も この種の貧困救済策の行方をさらに見守るつもりである。

おわり



第17図 山東省で発見され「常林ダイヤモンド」と命名された158.79カラットのダイヤモンド。現在 遼東半島 山東半島 大行山脈南部東麓などではダイヤモンド鉱床が発見され 既に採掘されているものもある。(“中国画報” 1983. 7)